

科名 血液内科 血内35
 対象疾患名 急性リンパ性白血病
 プロトコール名 ALL202-U-Induction

Rp	形態	ルート	薬剤名	単位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	点滴	側管	グラニセトロンバッグ	1mg	30分かけて									↓	↓	↓			
2	点滴	側管	デキサート注	8.25mg/㎡	30分かけて									↓	↓	↓	↓	↓	↓
			生理食塩液	50mL															
3	点滴	側管	オンコビン	1.5mg/㎡	30分かけて									↓					
			生理食塩液	100mL	壊死性抗がん剤														
4	点滴	側管	ビノルビン	25mg/㎡	1時間かけて									↓	↓				
			5%ブドウ糖	100mL	壊死性抗がん剤														
5	点滴	側管	エンドキサン	1200mg/㎡	1時間かけて											↓			
			生理食塩液	250mL															
	経口		プレドニン	60mg/㎡		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓						
	髄注					↓								↓		(↓)			

Rp	形態	ルート	薬剤名	単位		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	...	35
1	点滴	側管	グラニセトロンバッグ	1mg	30分かけて	↓								↓						↓				
2	点滴	側管	オンコビン	1.5mg/㎡	30分かけて	↓								↓							↓			
			生理食塩液	100mL	壊死性抗がん剤																			
3	点滴	側管	ロイナーゼ	6000U/㎡	4時間かけて	↓		↓		↓		↓		↓		↓		↓		↓				
			5%ブドウ糖	500mL	初回投与時 ブリックテストを行う																			
	経口		プレドニン	40mg/㎡		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	経口		プレドニン	10mg/㎡																	↓	↓	↓	
	髄注					(↓)								↓										

1クール=35日間

～MEMO～

オンコビン Max = 2 mg

<髄注>

- ・day1に髄注(MTX 12mg)を行う
- ・day8,22に髄注(MTX 12mg+ AraC 30mg+ハイドロコトシ 25mg)を行う。
- ・初診時中枢神経病変陽性の場合は、day11,15にも髄注を行う。

<ステロイド>

- ・day1-7、及びday15-28のプレドニンは点滴でも可。その際の投与量は、経口投与時と同量とする。day29以降は漸減中止とする。
- ・day8-14のデキサート注は、経口投与でも可。その際の投与量は、10mg/㎡/日とする。

<ロイナーゼ>

- ・初回投与時はブリックテストを行う

《ブリックテスト用調製方法》

1. ロイナーゼ5000単位を5%ブドウ糖液2mLで溶解後、全量を5mLとする。
2. 0.1mLを分取し、5%ブドウ糖液で全量1mLとした後、このうちの0.1mLを皮内注射する。(ロイナーゼ投与量 10単位)
3. 皮内注射後15-30分間異常がないことを確認する。

- ・day15以降のロイナーゼは筋注でも可。その際は、注射用水で溶解すること。
- ・点滴静注時にアレルギー症状が起こった場合は投与ルートを筋注に変更する。点滴でアレルギー発症後の筋注投与は必ず静脈ルートを確保して、コートリルなどのステロイドの前投薬を行い、筋注後は十分な経過観察を行う。